

1. 研究活動

第42回イタリア声楽コン コルソ	2011. 10. 15	毎日新聞社、日本イタリ ア協会主催 名古屋芸術大学音楽講堂	日本イタリア協会が、若い才能のある人物を、 本場イタリアへ送って世界レベルの声楽家へ と育て上げることを目的として毎日新聞社と の共催で続けてきたこのコンクールの名古屋 予選に審査委員として参加
第3回コンコルソ ムジカ アルテ	2011. 10. 15	日本イタリア協会主催、 文化庁、イタリア大使館、 ミラノ市等後援	音楽と芸術、これから新しく世に出るアーチ スト達のコンクールと銘打たれた「コンコル ソ・ムジカアルテ」の名古屋地区の運営委員 と審査委員

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 歌曲研究Ⅱ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>この授業で取り上げている歌曲はいわゆる「ドイツ・リート」と呼ばれているドイツ語の歌曲であるが、声楽コースの二年時に設定されているので、まだドイツ語に馴染んでいない学生を指導する上での工夫が色々必要であった。先ず最初にドイツ・リートを理解させるための説明と演奏CDを聞かせることから始め、授業の二、三週目までは初級ドイツ語の教材を使い発音CDを聞きながら発音練習を繰り返し行った。そして、優れた詩人による歌詞を理解し、ピアノが奏でる音楽との絶妙な調和が不可欠の歌唱法を身につけるのは至難の業とはいえ、学生がそれに少しでも近づけるために、数多くいるリート作曲家の中から比較的理解しやすいと思われる初期ロマン派の代表的作曲家のシューベルトを中心に授業をすすめた。また、ピアノ伴奏の重要性を体感させるためにプロ級の伴奏者を使った。</p>	<p>シューベルト歌曲集、シューマン歌曲集、ブラームス歌曲集等、ドイツ語トレーニングブック、CD多数</p>	

3. 学会等および社会における主な活動

日本イタリア協会	1980年より継続中	演奏活動及びコンクールの審査 名古屋地区の運営
----------	------------	----------------------------